

第2回くりはま花の国ほか1箇所指定管理者選考委員会議事録

概要

日時：令和7年9月30日（火） 午前10時00分～午前11時20分

場所：横須賀市役所消防局庁舎 3階 消防第2・第3会議室
（応募団体控室は404会議室、傍聴者控室は405会議室）

出席者：選考委員 ◎工藤 幸久（横須賀商工会議所 理事 事務局長兼総務渉外課長）
浦田 啓充（一般社団法人 日本公園緑地協会 常務理事）
倉田 薫子（横浜国立大学教育学部 教授）
熊澤 彰（文化スポーツ観光部 観光課長）
○飯森 律（建設部 公園管理課長）

*敬称略 ◎委員長 ○職務代理者

事務局 辰馬・内山・石橋・渡辺・辻
（建設部公園管理課）

傍聴者：3人

議事次第

- ・第2回くりはま花の国ほか1箇所指定管理者選考委員会開会
- ・非公開での進行についての事前説明（事務局）
- ・公開での応募者によるプレゼンテーション・質疑応答

第2回くりはま花の国ほか1箇所指定管理者選考委員会 開会（非公開部分含む）

- ・本委員会の委員数は5名であり、指定管理者選考委員会等条例の第4条の規程による定足数の半数以上の出席があることから、本委員会の成立を確認。
- ・くりはま花の国ほか1箇所の応募団体は1団体であり、提出書類の内容から、応募資格に問題無いことを確認。
- ・当日の応募者によるプレゼンテーション・質疑応答の方法等について確認

くりはま花の国ほか1箇所 応募団体① くりはまフラワーパートナーズ

●プレゼンテーション 20分間

※プレゼンテーション開始前に説明資料（パワーポイントの表示画面を印刷したもの）を配布。
（事前に応募団体から事務局へ提出され、事務局にて内容確認済みの補助資料）

*終了後回収なし

●質疑応答 約30分間

(委員 質問)

- 障害者の積極的雇用について、代表企業として障害者雇用率が法廷基準を満たしていないが、今後達成に向けての方針はあるか。

(くりはまフラワーパートナーズ 回答)

- 西武造園グループでは造園だけでなく、施工、農業を多岐の分野にわたって営業を展開しており、障害者の働き方にマッチするような人材の活用の仕方を適宜ヒアリングし、マッチする職場に当てはめるように人事の方で動いている。厳しい状況ではあるが、リクルートを行いながら取り組んでいる。

(委員 質問)

- 横須賀市の中心部から花の国が離れているため、他施設との連携が必要という記載があったが、本市は花の国を4大拠点の一つとして位置付けられている中で、自らが周辺の地域を引っ張っていく必要があると思っているが、それについてどう考えているか。

(くりはまフラワーパートナーズ 回答)

- 重要な施設の一つではあるが、アクセスが悪く車で行かなくてはいけない点が課題である。駐車場に入るときに渋滞するなどの課題をクリアするため、オンラインでの満空表示など駐車場システムの改善を図りたい。
- また閑散期にも魅力的なイベント等を行う。ルートミュージアムの取り組みも注視しており、自社が担当している施設、また他の関係施設とも連携して、盛り上げていくような取り組みをしたい。
- 今回「～まち全体に活気と彩りをひろげる～ Blooming Park」をコンセプトにしている。花の国がお花いっぱいダイナミックに活性化し、リピーターや、SNS や口コミで広がることで、地域が活性化していく、という提案を掲げている。くりはま花の国の力で、まち全体を活性化していきたいと考えている。

(委員 質問)

- 花の国のポテンシャルを最大限有効利用するために、どんなニーズを把握しているか。集客について、年齢、性別、集客のエリアで、どのようなターゲットを考えているか。

(くりはまフラワーパートナーズ 回答)

- 小さな子供から大人まで、すべての年代に来園してもらいたい。
- 子どもは遊具、イベントなどで集客する。
- 20代30代の若者については、大規模植栽がSNSで受けが良いため、SNSで二次的に花の国をアピールしてもらうことで、広域に花の国の存在を知ってもらい、来園を促したい。
- 40代以上は、花の人気の高いが、園内の移動は、ご高齢の方にとって特に大変になっていると思われるため、フラワートレインだけでなく、グリーンスローモビリティの試行などで、より安心して楽しんでほしいと考えている。

- 今回提案しているひまわりや、特にもこもことした立体感や色鮮やかさが特徴のセロシアは SNS 映えするため、規模が大きく奥行きのある花の国で多様な柄を展開することで新たな若い客層の取り込めると見込んでいる。

(委員 質問)

- 入園者数を記録更新したいとあったが、集客だけでなく、集客と収益をセットで検討する必要があると考えるが、収益を検討することで、結果として集客も増えていくと思うが、そのような仕組みや政策はあるか。

(くりはまフラワーパートナーズ 回答)

- 集客を増やすため、メディアへ露出することが必要と考え SNS の提案をした。そのためには、魅力的に誘客できるような政策というところが必要になるため、まずは花修景を大きく押し出したいと考えている。
- レストランやイベントでサービスを提供することが必要だと考えている。
- 来園者数が増え収益につながらないと運営に支障があるため、収益につながる構造を早急に構築したい。
- 花に絡めたメニューや、写真映えするメニューなど計画していきたい。

(委員 質問)

- 広報について、SNS を活用して若者層を取込むという提案があったが、エリアを明確にした段階的な取り組みとして方針を出しているが、段階的にする必要はあるか。

(くりはまフラワーパートナーズ 回答)

- まずは地元の方に、地元の施設だと認識してもらうのが大切だと思う。その上で周辺の人に知ってもらおう。最初から広域の考え方もあるかもしれないが、まずはしっかり地固めするために、段階的に考えている。
- 久里浜、横須賀市市民が、他の地域の人に自信を持って紹介できる施設になってもうことで、結果、遠方にも久里浜の知名度が上がっていけば良いと考えている。
- セロシアは周辺地域であまり例がなく、花の国では大規模に展開することで広く PR していきたいと考えている。

(委員 質問)

- 外向けに観光的な視点で大きく PR する中で、令和 9 年の園芸博覧会との連携があったが、具体的には何を考えているか。

(くりはまフラワーパートナーズ 回答)

- 西武造園でも花博と連携して取組んでいるので、横須賀市に大規模花壇があるということをもまずは広報でアピールしたいと考えている。

(委員 質問)

- 生育不良になっているものの土壌改良、地盤改良を抜本的にやっ払いこうということだが、令和9年に大規模な土壌改良をする計画になっているが、この計画にした意図はあるか。

(くりはまフラワーパートナーズ 回答)

- 現在花を咲かせるのに苦勞していて試行錯誤している段階であるが、今年度に分析を進め、来年度に方針を決定し、令和9年度の2年目に大規模に実施する計画で考えている。

(委員 質問)

- 花壇を閉めてしまうわけにはいかないのですが、段階的にやるしかないと思うが、土壌改良のイメージはあるのか。

(くりはまフラワーパートナーズ 回答)

- 今年度、緑肥のひまわりを実施した。緑肥と言いつつも結構花が良かったため、花を咲かせてしまったが、またそれを活用しながらやっていきたいと考えている。

(委員 質問)

- 花畑のバージョンアップに合わせて、管理許可施設の内装の整備もやり、収益をアップさせるということでしょうか。

(くりはまフラワーパートナーズ 回答)

- 花の国の魅力はやっぱり花であるため、まず花を整備しなくてはいけない。その上で管理許可施設の改修も行い、見るだけではなく、食べる、ゆっくり休むという点で満足いただけるようにしたい。

(委員 質問)

- 仕様書では、樹林の管理について専門的な知識を有する指導のもととあるが、現場に樹木医がいるのか。

(くりはまフラワーパートナーズ 回答)

- 樹木医が常駐しているわけではない。自社は、全国で多くの公園を管理運営しており、色々ノウハウがあるので、花の国でも展開したいと考えている。

(委員 質問)

- 定期的な樹木点検の時には、西武造園の樹木医と一緒に回るイメージか。

(くりはまフラワーパートナーズ 回答)

- 状況に応じて樹木医に対応してもらうことを想定している。

(委員 質問)

- 近年生物多様性保全について、もう一步踏み込んだ教育的なイベントを行いうことで、花の少ない時期でも来られるようになると思うがどう考えているか。
- 樹木園は木しかないように見えて、非常に教育的価値が高いと思うため、活用を検討しているか。
- 第1駐車場から入った入口の左側に湧き水があるが、ビオトープを作って人を入れるなど、近隣のお花をテーマにする公園との差別化ができるのではないか。
- 生物多様性ガーデンとあるが、ボランティアがやるなどの規格はあるのか。

(くりはまフラワーパートナーズ 回答)

- お花を見る次は段階として学びがあると考えている。他の公園でも教育的な取り組み実績があるので、花の国でも行いたいと考えている。
- 湧き水を活用して、多様性というテーマでも活用を考えたい。
- 夏は特に日中が暑いので、夜間の虫の観察会などのイベントも取り入れたいと考えている。

(委員 質問)

- 作業員の熱中症対策はあるが、利用者への対策は考えているのか。

(くりはまフラワーパートナーズ 回答)

- 夏場は来園者数も減る傾向にある。来園していただくため、ミストの活用や注意喚起の案内を適宜出すなど配慮が必要だと考えている。また、夕方に楽しんでもらえるイベントが必要だと考える。

(委員 質問)

- 花について、現状の課題はあるか。

(くりはまフラワーパートナーズ 回答)

- 大規模花壇の花の咲きが良くなかったが、土壌改良や植える花の種類を変えるなど、花が綺麗に咲くような取組を考えている。
- ネモフィラやコスモスは谷戸の多湿な環境に向いていないため、キャスルセロシアやコスモス(レモンブライト)などの地形にあった花を展開したいと考えている。
- ネモフィラは、条件の良い天空の花壇に植え、引き続き楽しんでいただきたい。

(委員 質問)

- 提案の中で、一番のPRしたいポイントはどこか。

(くりはまフラワーパートナーズ 回答)

- 大規模花修景であると考えている。キャスルセロシアは連作障害があり毎年はできないが、レモンブライトと組み合わせることで毎年実施していきたい。

- 他の大規模公園の実績もあり、そこで得たノウハウを展開し、花の国の一番の売りである花修景をどんどん出していきたいと考えている。

(委員 質問)

- ひまわりについては、ソレイユの丘のひまわりとどのように差別化を図るか検討しているか。

(くりはまフラワーパートナーズ 回答)

- 今年度初めてひまわりを植えたため、広報が追い付いていなかったもので、今後はしっかりと広報を行っていきたい。
- 花の国は他のエリアでも花を楽しむことができることや、眺望も良いので差別化を図ることができると考える。
- 花の国のひまわりは、1.8haに100万本と関東でも有数の規模であり、数と広大な面積では圧倒的であり、見栄えが良いと思っている。

(委員 質問)

- SNSの活用で、自社発信には限界があり、行った方がそれぞれSNSで発信して、拾われて拡散していくことが大きな成功要因であると考えている。また、参加型でSNSを活用してもらう方法を検討していくと良いと思う。
- ペリー公園は、来園者に何を求められていると考えるか。

(くりはまフラワーパートナーズ 回答)

- 一番は歴史だと思うので、映像や画像を新たなものへ更新、ガイドツアーの更新などバージョンアップしていくことを考えている。
- 国内外の観光客に知ってもらうため、学芸会にサポートいただきながら展示、企画展を新たに行う。
- ミュージアムショップの運営では、グッズのニーズも高いと考えている。

(委員 質問)

- 観光協会、商店街と連携し、お菓子やグッズなど手土産コーナーの充実、また、リーフレットなど歴史に関わるものも検討していただきたいと考える。
- 集客50万人について、過去に一番成功したと思う企画は何か。

(くりはまフラワーパートナーズ 回答)

- 花をしっかりと咲かせられたときは、集客にもつながっていると感じている。

(委員 質問)

- 多様な企画を提案しているが、人材不足の中で実施するには、しっかりした計画が必要だが、ヘッドガーデナーが責任者として計画を立て実行する流れという理解で良いか。

(くりはまフラワーパートナーズ 回答)

- ヘッドガーデナーは全体を見ながら、計画、実施のサポート、振返り、PDCA 的に関わっていく。
- 人材の確保は難しいため、公園職員だけでなく外部の人材も活用し、担当者への研修を行いながら、提案を実現していきたい。

(委員 質問)

- 広域連携について、軍港巡りが人気だが、軍港巡りのあとに花を見てもらえるような連携や東京湾フェリーや千葉側との連携も考えると良いのではないか。

(くりはまフラワーパートナーズ 回答)

- 長年にわたる花の国での管理運営のなかで、地元、他の施設との連携の経験があるので、しっかり展開していきたい。

プレゼンテーション・ヒアリング終了

【事務局からの連絡事項】

終了

【事務担当：横須賀市建設部公園管理課 石橋・辻 TEL046-822-9562】